



九州産業大学 造形短期大学部 近藤 真生・張 遠

Architectural Design

住環境に、藍胎漆器を仕上材として使用する提案である。

藍胎漆器は、軽く丈夫であり、湿気等にも強いことから建築材として大変優れた素材です。

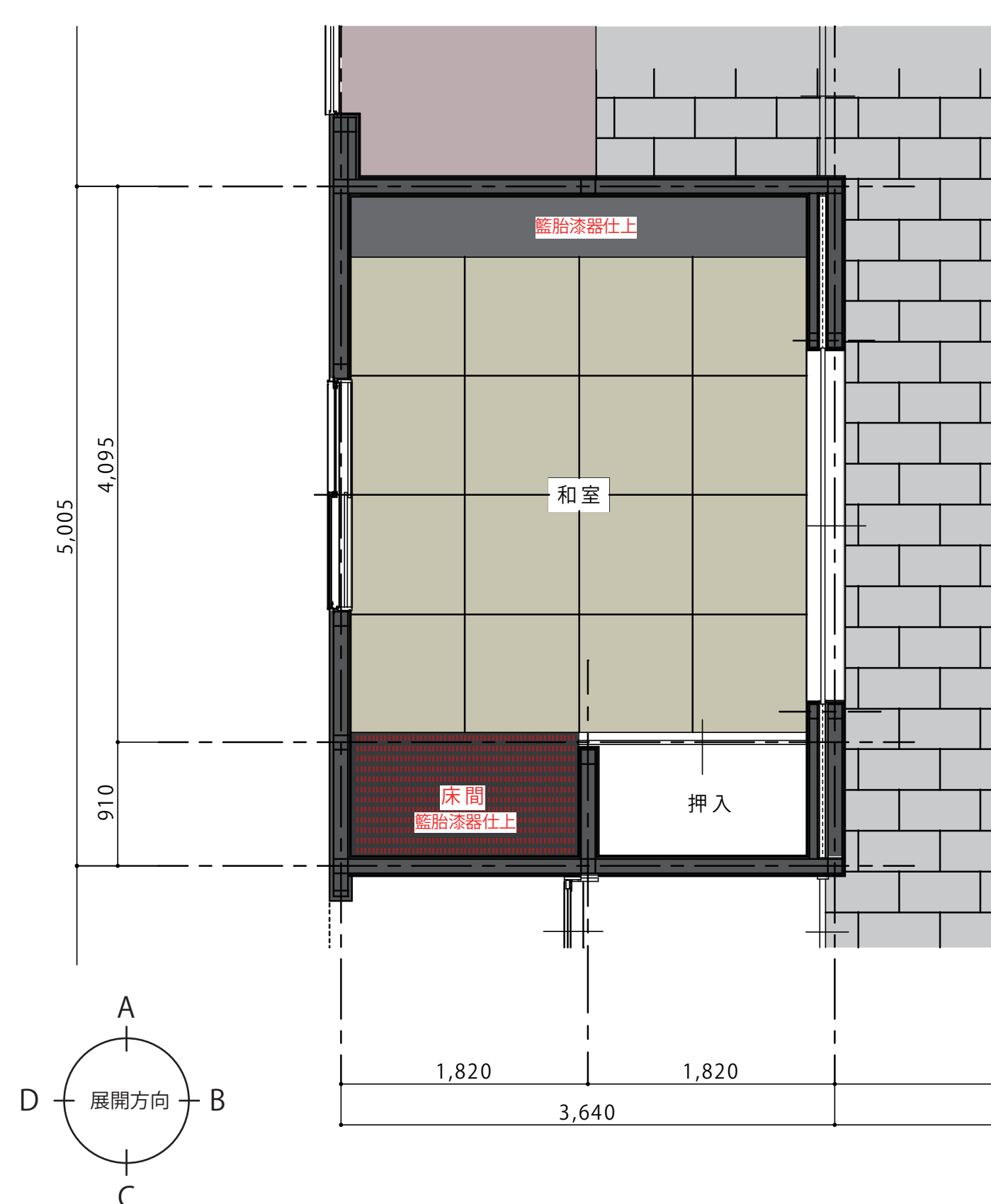
古くから日本家屋に寄り添って来た藍胎漆器のデザインは、和の空間にとてもよく溶け込むデザインであり、日本独自の空間である「和」の空間に藍胎漆器の上品な仕上がりが加わることにより、落ち着いた空間を演出する事ができると考えます。

例として、和室の床の間に使用するのはどうだろうか。

床の間は、床柱、床框、落掛などで構成され、掛け軸や活花などを飾る場所であり、床板は、本漆塗りで仕上げられる事も多く、漆塗りで仕上げられる藍胎漆器は、床の間と親和性が高い。

さらに、乾燥や湿気の影響を受けることが少ないため、板間や建具等の仕上材としても、安心して使用可能である。

人々が生活する上で必ず必要な住空間に藍胎漆器を取り入れ、より豊かなライフスタイルを送ってほしい。



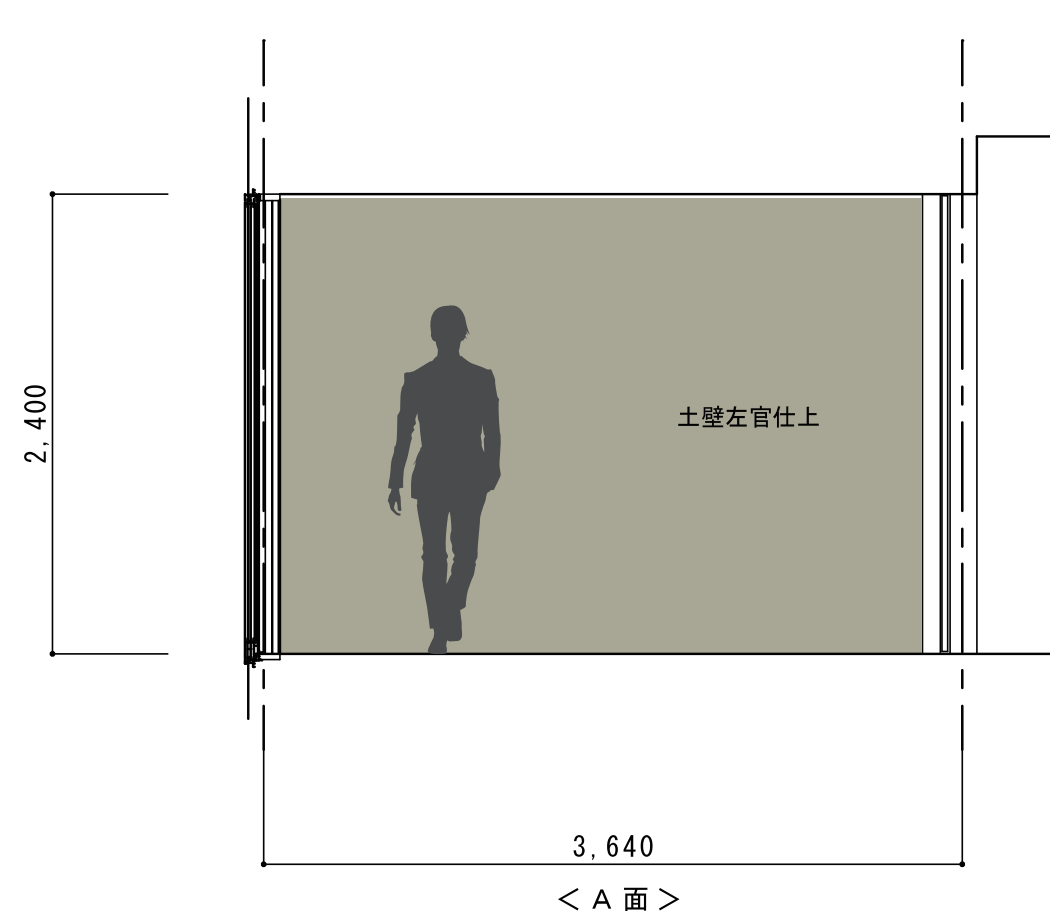
平面図：NOSCALE



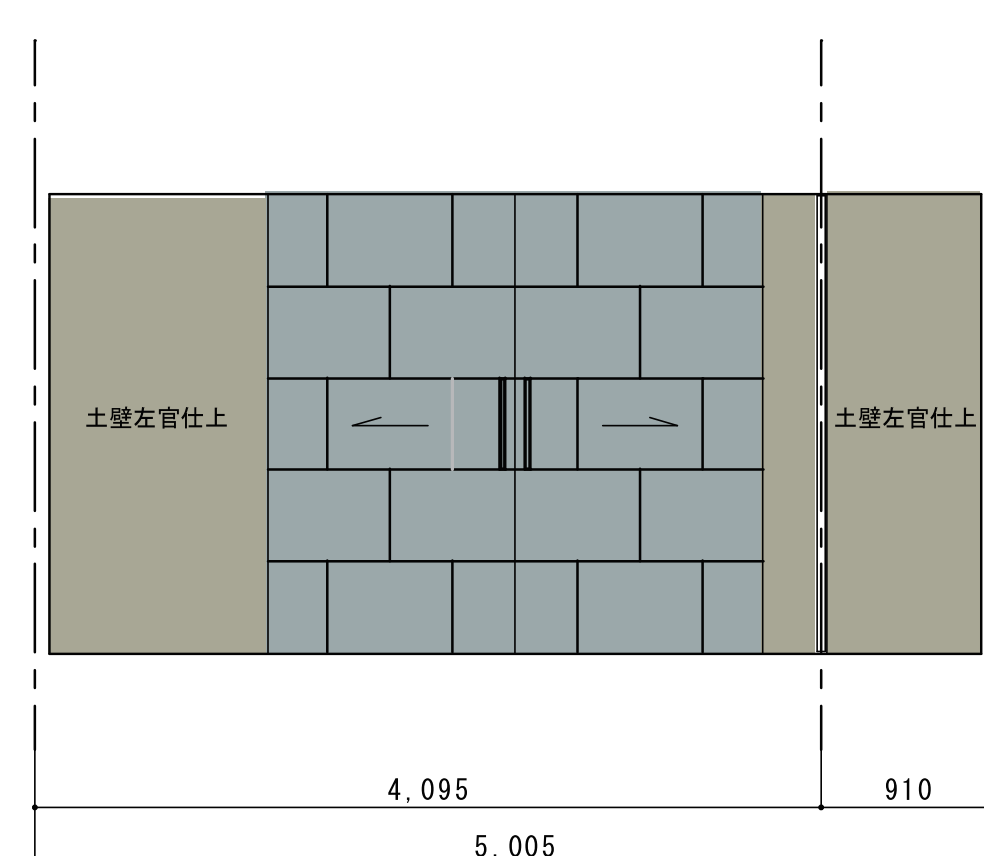
床の間に藍胎漆器を使用したイメージ



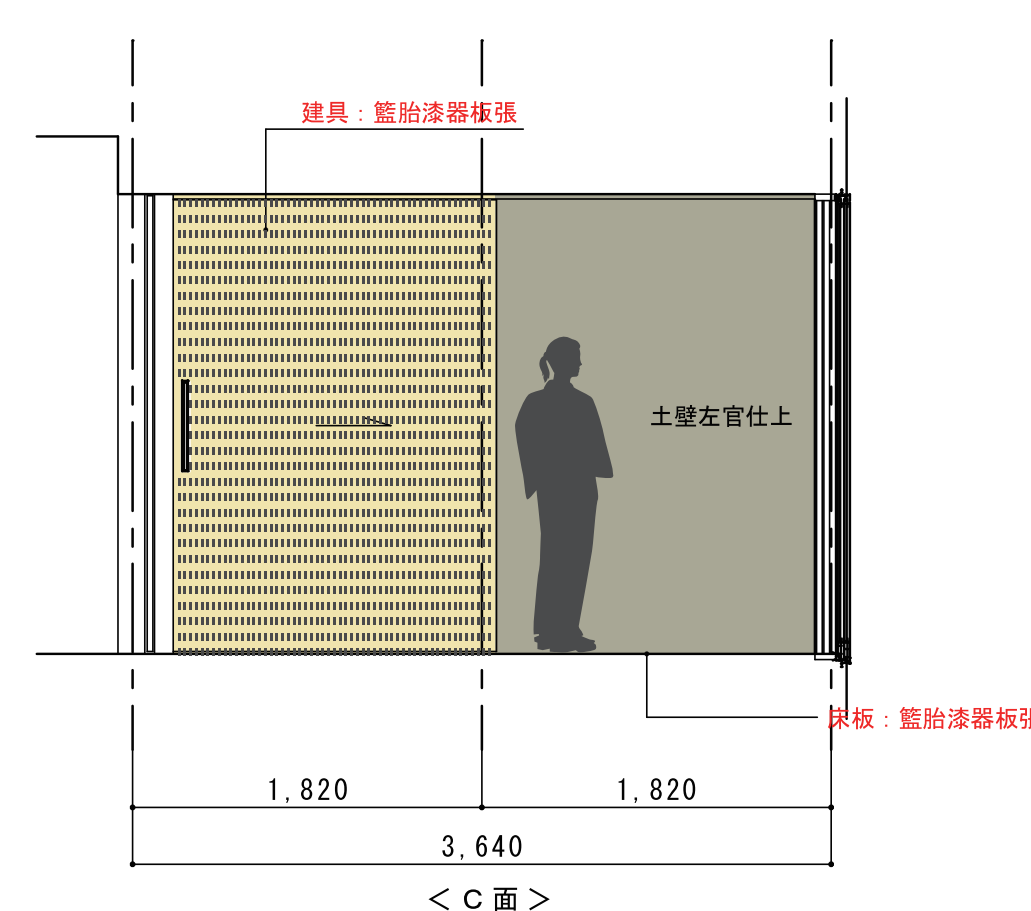
床の間と建具に藍胎漆器を使用したイメージ



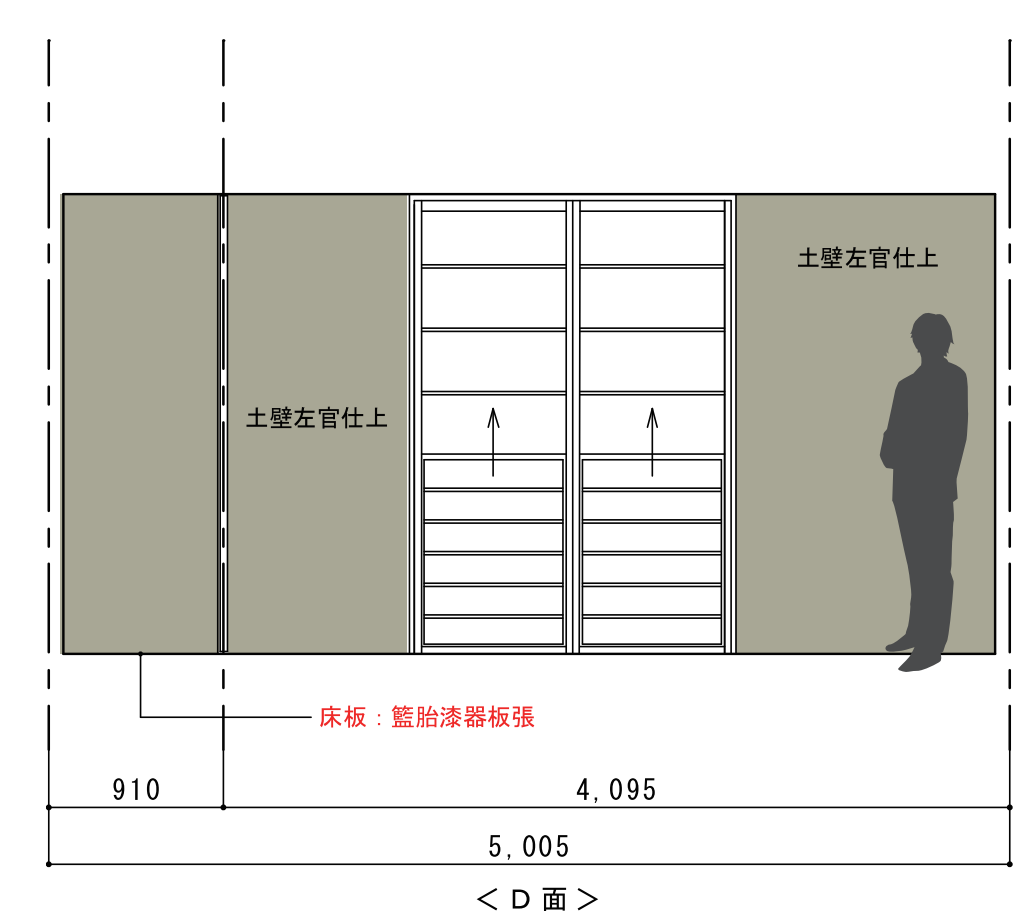
< A 面 >



< B 面 >



< C 面 >



< D 面 >

展開図：NOSCALE